

第4次中期経営計画にかかる自己改革工程表（平成29年度～平成31年度）

J Aの自己改革の3つの基本目標「農業生産の拡大」「農業者の所得増大」「地域の活性化」を実現していくため、第4次中期経営計画の中から選定して、次のような自己改革工程表を策定し、自己改革に向け着実に実践していきます。

●農業生産の拡大

重点施策	評価指標 (現状：H28年度)	目標値			【責任部署】 行動計画	区分			評価指標	現状 (H28年度)	目標値		
		H29 (実績値)	H30 (半期実績値)	H31		新規	継続	拡充			H29 (実績値)	H30 (半期実績値)	H31
1 地域の農業生産力拡大に向けて、担い手の育成・支援に取り組みます。	担い手経営体等の農地の面的集積促進 【多様な担い手集積面積】 (6,500ha)	7,000ha (実績：6,761ha)	7,500ha (実績：6,829ha)	8,184ha	① 【営農企画課】 農作業受託相談機能の充実を図り、農地中間管理事業と併行し、受託農家の面的集積支援に取り組みます。	○			農地利用集積円滑化事業による受託面積	63ha	70ha (68ha)	90ha (68.8ha)	120ha
					② 【営農企画課】 税理士等による税務研修会を開催するとともに、確定申告書内容確認のため、派遣税理士制度等の普及拡大に努めます。	○			税理士等による税務研修会回数	8回	10回 (13回)	12回 (14回)	14回
					③ 【営農企画課】【人事課】 各支店、センターの営農指導体制を強化し、出向く営農指導体制を構築するとともに営農指導員の資質向上を図ります。	○			営農指導員資格者数	27人	30人 (37人)	35人 (39人)	40人
					④ 【営農企画課】 営農指導員やTACを通じてWeb農業簿記利用者の拡大を図り、経営分析支援を実施します。	○			Web農業簿記利用者数	126人	130人 (123人)	140人 (123人)	150人
2 安全・安心な農畜産物を供給するための生産体制強化に取り組みます。	【GAP取り組み組織数】 (21組織) ※「GAP」とは、農業生産活動を行う上で関係法令等定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を持続的に活動することです。	22組織 (実績：21組織)	27組織 (実績：25組織)	32組織	① 【営農企画課】 生産履歴や実証圃、各種分析結果を活用し、分かりやすくきめ細やかな営農指導を行います。			○	指導会回数	160回	165回 (131回)	170回 (266回)	175回
3 信用部門と営農経済部門（TAC含む）が連携し、積極的な訪問活動と農業メインバンク機能を強化する事により、利用者満足度の向上を図ります。	【農業融資新規実行額】 (5.5億円)	7億円 (実績：6.8億円)	8億円 (実績：2.3億円)	10億円	① 【融資課】 農業法人を含めた担い手農業者へ、融資担当・TAC・営農指導員・農機センター等が連携した訪問活動を通じニーズを把握。相談機能を発揮し農業金融情報や必要とする農業資金を提供します。			○	同行（連携）訪問件数	160件	170件 (119件)	180件 (55件)	200件

●農業所得の増大（販売・高付加価値化）

重点施策	評価指標 (現状：H28年度)	目標値			【責任部署】 行動計画	区分			評価指標	現状 (H28年度)	目標値		
		H29 (実績値)	H30 (半期実績値)	H31		新規	継続	拡充			H29 (実績値)	H30 (半期実績値)	H31
1 売れる米づくりに向けたライス戦略を実践します。	【米穀販売高】 (63億円)	65億円 (実績：71億円)	60億円 (-)	60億円	① 【農政米穀課】 業務用米・非主食用米の需要拡大に向け、コシヒカリ以外の作付け誘導を進め、契約栽培による販売強化を図ります。			○	契約栽培面積	668ha	680ha (656ha)	700ha (661ha)	750ha
2 「新潟みらい」の地域特色を最大限に活かし、付加価値を増大させる販売戦略とマーケットインに基づく生産により、農業所得の向上を図ります。 ※「マーケットイン」とは生産・販売活動をする際に、消費者のニーズを重視する方法です。	【園芸・畜産物販売高】 青果物販売高 (67.3億円) 花卉販売高 (9.7億円) 畜産販売高 (6.6億円) ※青果物は、全国的な数量減少による価格高騰のため	青果物販売高 62.8億円 (実績：64億円) 花卉販売高 9.8億円 (実績：9.3億円) 畜産販売高 6.1億円 (実績：6.3億円)	青果物販売高 63.2億円 (実績：11.3億円) 花卉販売高 9.8億円 (実績：4.4億円) 畜産販売高 6.1億円 (実績：2.4億円)	青果物販売高 63.2億円 花卉販売高 9.8億円 畜産販売高 6.1億円	① 【園芸畜産販売課】 営業販売・相対取引・契約取引・輸出等直接販売を拡大し、販路確保によって安定・有利販売を図ります。			○	直販販売高	1.2億円	1.3億円 (1.3億円)	1.4億円 (1.3億円)	1.5億円
					② 【園芸畜産販売課】 基幹市場や実需者との販売会議を通じて、市場ニーズに沿った流通により新潟みらいブランド力の強化を図ります。			○	基幹市場・実需者との販売会議の開催回数	30回	35回 (35回)	40回 (25回)	45回
					③ 【園芸畜産販売課】 衛生管理マニュアルに基づく生乳生産と、高品質な肉質重視の飼養に取り組み関係機関と連携した販売方策によって所得確保を図ります。			○	畜産コンサルと共同の指導会回数	肉牛 2回 酪農 2回 養豚 0回	肉牛2回(2回) 酪農2回(2回) 養豚1回(-)	肉牛2回(-) 酪農2回(-) 養豚1回(-)	肉牛 2回 酪農 2回 養豚 1回
3 「チャレンジ！プラス1」への取り組み強化により園芸品目の生産を拡大し、経営の複合化を進めます。	【園芸振興重点品目栽培面積】 (プラス1、最重点、重点品目) (1,045ha)	1,066ha (実績：992ha)	1,087ha (実績：941.8ha)	1,108ha	① 【営農企画課】 ブランド品目や地域に見合った園芸品目への作付を誘導した生産拡大。また品質・収量向上対策を実施し、農業所得向上を目指します。 (白根地域：えだまめ等、五泉地域：さといも(帛乙女)等、亀田・横越地域：にんにく等、阿賀地域：わらび等、新潟西地域：かんしょ(いもジエンヌ)等)			○	各地域における基軸園芸品目の栽培面積(プラス1、最重点)	547ha	565ha (537ha)	582ha (525.1ha)	598ha
					② 【営農企画課】 新規園芸作物への取り組みのため、営農・経済・農機部門が連携した栽培指導会を開催するとともに、上記部門と信用部門が連携した提案を行います。			○	新規園芸栽培指導会回数	2回	5回 (4回)	5回 (10回)	5回

●農業所得の増大（生産コストの削減）

重点施策	評価指標 (現状：H28年度)	目標値			【責任部署】 行動計画	区分			評価指標	現状 (H28年度)	目標値		
		H29 (実績値)	H30 (半期実績値)	H31		新規	継続	拡充			H29 (実績値)	H30 (半期実績値)	H31
1	生産資材予約率の向上を図り、生産コスト削減に努めます。	37億円 (実績：36億円)	37億円 (実績：21.6億円)	37億円	① 【経済課】 営農経済部門（TAC含む）職員の積極的な訪問やフォロー推進により予約取引の有利性を周知し、利用者の予約率向上に取り組みます。	○	○	○	予約率（金額ベース）	56.8%	60% (56%)	65.0% (66.8%)	75.0%
2	生産資材価格の予約メリットを拡大し、利用者の満足度向上に取り組みます。				① 【経済課】 予約品自己引取の有利性を普及・周知し、自己取り予約取引を拡大します。	○	○	○	自己取り対象件数	3,100件	3,200件 (7,066件)	3,300件 (6,389件)	3,400件
3	営農コスト軽減化の確立・普及を積極的に提案し、組合員の農業所得向上を目指します。				② 【経済課】 大規模農家・組織に対し、大型規格農薬の提案や予約品直送取扱の有利性を周知し、直送取扱を拡大します。	○	○	○	直送取扱対象件数	88件	100件 (128件)	110件 (39件)	120件
		① 【経済課】 新潟県下JA統一規格の水稻肥料（平成30年より取扱開始予定）の普及・拡大に努め、低コスト生産を図ります。	○	○	○	統一規格肥料供給率	—	準備 (準備)	70% (19.5%)	100%			
					② 【経済課】 土壌分析を進め、分析結果に基づくムダのない施肥や安価肥料等資材価格低減策を提案します。	○	○	○	土壌診断の件数	120件	130件 (147件)	140件 (45件)	150件

●地域の活性化

重点施策	評価指標 (現状：H28年度)	目標値			【責任部署】 行動計画	区分			評価指標	現状 (H28年度)	目標値		
		H29 (実績値)	H30 (半期実績値)	H31		新規	継続	拡充			H29 (実績値)	H30 (半期実績値)	H31
1	「アクティブメンバーシップ」の実践を通じ、JA運営・活動に参画してもらうため、各種活動（組織基盤強化・支店協同・健康管理・ファンづくり・食農食育・ボランティア）に積極的に取り組みます。 ※「アクティブメンバーシップ」とは組合員が積極的に組合の事業や活動に参加することを指します。				① 【企画総務課】 あぐりスクールや出前授業を通じ、次世代を担う子供たちに食の大切さや地域の食文化への理解を深めるとともに、保護者のJA事業の理解と利用を促します。	○	○	○	あぐりスクール参加者数	20人	30人 (22人)	30人 (74人)	30人
					② 【企画総務課】 交通安全街頭活動や地域の清掃活動へ参加し、地域貢献を通じてJAの存在意義を高めます。	○	○	○	地域ボランティア参加回数	—	1回 (1回)	2回 (—)	2回
2	地域との絆・ふれあいを深めるため、多様な手段を活用した広報活動を積極的に取り組むとともに、組合員・利用者の意思を事業運営や組織活動へ反映します。	700件 (実績：935件)	720件 (実績：570件)	750件	① 【企画総務課】 広報活動（広報誌・コミュニティ誌・ホームページ等）を通じて、地域の明るい話題、農畜産物情報、イベント情報を発信し、農業・JAへの認知度・理解を深めるとともに意見・要望の聞き取りを行い、事業活動へ反映します。	○	○	○	発行回数 (広報誌・コミュニティ誌)	14回	14回 (14回)	14回 (7回)	14回